

2023 年度 京都教育大学附属幼稚園 学校評価

自己評価区分	
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	十分には達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

① 教育活動その他の学校運営に関する事項（学校教育法に基づく評価）

本年度の重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
(1) 幼児及び保護者との信頼関係を築き、幼児の発達の特성에応じた支援を行なう。	<p>① 幼児理解に努め、保護者との連携を図りながら、一人ひとりの園児が個性を發揮できる保育を推進するとともに、保護者との信頼関係を構築し、一人一人の特性に応じた支援を行なう。</p> <p>② 新幼稚園教育要領実施に合わせ改訂した本園の「教育課程・全体の計画」をもとに、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを意識して、週案作成・検討、保育の実施、事例収集・検討を行い、スタートカリキュラムを見据えた幼稚園の教育課程の在り方について研究し、作成する。</p>				
(2) 教育目標を実現するための、物的環境、人的環境の工夫・見直しを図る。	<p>①改組により変更したクラス編成や定員に応じて保育室を再構成し、新たな保育の可能性を探る。</p> <p>②昨年度改修した池や設置した土山等の環境を生かし、園児の学びを豊かにする園庭の環境作りを目指す。</p> <p>③非常勤講師、特別支援教育支援員な</p>				

	<p>どを含め、教職員の支援体制を見直し、教職員全員がチームとなり、よりよい保育を目指す。</p>				
<p>(3) 本園の機能強化課題である小学校との連携、子育て支援の充実を目指す。</p>	<p>①附属桃山小学校との連携を強化し、教育理念や教育方法の連携を行い、教員間の情報交換を密にし、学びの連続性や互惠性に着目した保育を実践する。</p> <p>②保護者への子育て支援として、保育後の園庭開放を行い、子どもの姿を見ながら、保護者間で交流できる場や、保護者が気軽に教員と話ができる場を持てるようにする。</p> <p>③スクールカウンセラーと連携し教育相談、少人数のサロン、副園長との子育て談義、多様な懇談などの機会を設ける。また、様々な分野の講師を招き、子育てについての講演会を開催する。</p> <p>④地域の未就園児の親子に幼稚園の存在を広めるべく、幼児教育科と連携して未就園児の会を開催して親子で来園し、遊んだり行事に参加したりする機会を設ける。HPなどでその情報を開示し広めていく。</p>				

2023年度 京都教育大学附属幼稚園 学校評価

自己評価区分	
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	十分には達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

② 附属学校園の機能向上に関する事項

本年度の重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
(1) 教育研究活動の成果を公表する。	①本園の独自研究を公開する研究発表会（幼児教育を考える協議会）を開催する。  ②地域や全国の教育委員会、その他学校関係者の視察、参観、及び学生の卒業論文の実験、観察などを積極的に受け入れる。				
(2) 大学と附属学校園とが連携した研究を実施する	① 大学の实地教育運営委員会、幼児教育科教員と協働し、教育実習指導及び教職専門実習の在り方の検討や実習評価の改善に取り組む。  ②大学の幼児教育協働研修プロジェクトの一環として、保育を公開、検討することを通して、公私や園の種別を超え、さまざまな園・所の先生方と共に保育の質を探究し、共に高め合う。				
(3) 総合教育臨床センター学びサポート	総合教育臨床センター学びサポート室と連携することで、園生活や家庭生				

ト室と連携する。	活において困り感を持つ子どもや保護者に対して、個の理解が深められるような援助・指導を行う。				
(4) 業務改善及び教職員の働き方に関する取り組みの推進する	<p>①連絡帳アプリを活用し、園務の効率化、情報化を推進する。に、学校行事や教職員の役割分担を見直し、学校業務の適正化を図る。</p> <p>②園行事や教職員の役割分担を見直し、園業務の適正化を図る。</p>				